

第1学年算数科学習指導案

日 時 令和5年10月11日(水) 公開授業 I
 児 童 1年1組
 男子16名 女子15名 計31名
 指導者 江六前 理香子

1 単元名 たし算

2 単元の目標

1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

3 単元について

(1) 教材について

児童はこれまで、10の合成・分解や加法が用いられる場合やその意味、和が10以下の1位数どうしの加法計算について学習した。また、2位数の構成を「10といくつ」と捉え、 $10+5$ 、 $12+3$ など繰り上がりのない加法計算について学習している。

本単元では、既習の学習を基に「10といくつ」という数の見方に着目し、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、理解し、計算する力を育成していくことがねらいである。

(2) 児童について

学級の児童は、進んで学習に取り組んでいる児童もいるが、学習に向かう態度、既習内容の定着には個人差がある。また、友達の考えを聞いて、自分の考えを広げるには至っていない。レディネステストの結果は以下の通りである。

問題のねらい	正答率
・繰り上がりのない加法計算ができるか。	93%
・10までの数の合成・分解ができるか。	69%
・加法の文章問題ができるか。	93%

繰り上がりのない加法計算や文章問題の立式はできるが、数の合成・分解に間違いが多く見られた。「10といくつ」という既習の数の合成・分解に帰着させて考えることができるように、補充を行っていききたい。

(3) 指導について

本単元では、以下の点に留意して指導にあたっていきたい。

○ ブロック操作とさくらんぼ計算(図)と言葉、式を関連付ける

本単元では、「10のまとまり」をつくり、「10といくつ」の考え方をすることが大切である。ブロック操作を通して計算の仕組みが理解できたことを生かし、図を用いて、計算の仕方を説明していく活動を位置付けていく。ブロック操作や図に表しながら、「10といくつ」をつくり、答えを求めるまでの過程を説明する場を適宜設け、知識を伴った表現力を高めていきたい。

4 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①合併や増加など、加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ②1位数と1位数との加法の計算が確実にできる。	①ある場面で加法を用いることができるかどうかを、数量の関係に着目して、具体物や図などを用いて考えている。 ②日常生活の問題を加法を活用して解決している。 ③和が10より大きい数になる加法について、「10とあといくつ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。	① 加法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②加法の場面を身の回りから見付け、加法を用いようとしている。 ③学習したことをもとに、和が10より大きい数になる加法の計算の仕方を考えようとしている。

5 指導と指導計画（全10時間）

時	ねらい（学習内容）	評価規準（評価方法）		
		知・技	思・判・表	主体的態度
1	「10といくつ」という数の見方に着目し、 $9+4$ の計算の仕方（加数分解）を考える。	・知① 観察 ノート	・思①② ブロック 図 観察	・態①② ブロック 図 観察
2	被加数が9の場合の計算の仕方（加数分解）			
3 本時	「10といくつ」という数の見方に着目し、被加数が8や7の場合の計算の仕方（加数分解）を考える。		・思③ ブロック 図 観察	
4	被加数が9～6の場合の加法の計算練習，文章題	○知① 観察 ノート		
5	「10といくつ」という数の見方に着目し、 $3+9$ の計算の仕方（被加数分解）を考える。		○思① ブロック 図 観察	・態③ ブロック 図 観察
6	1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算練習，文章題	○知① 観察 ノート		
7 8 9	計算カードを使った，1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の練習	○知② 観察 ノート		
10	学習内容の習熟・定着（たしかめよう）	○知①②	○思③	○態③ ノート

6 本時について

(1) 目標

「10とあといくつ」に着目し、ブロック操作や図を用いて考える活動を通して、計算の仕方を説明している。
(思考・判断・表現)

(2) 研究に関わって

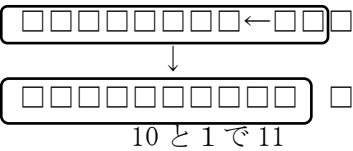
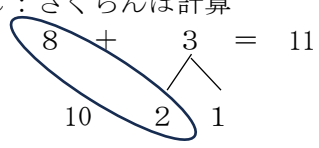
① 「事象との対話」数理的な問題把握

前時との共通点や相違点についての話し合いを通して、前時と同じように、「10といくつ」という数の見方に着目すると求められそうだという見通しをもたせ、自力解決をさせたい。

② 「他者との対話」考えを確かめる

既習と本時の学習の考え方を比べ、共通点を話し合うことで、「10といくつ」という数の見方に着目し、加数を分けてたすよさを理解させたい。

(3) 展開 (3時間目/10時間)

段階	学 習 活 動 ・主な発問 (T)・予想される児童の反応 (C)	・指導上の留意点 評価 ◇研究
つ か む 5分	<p>1 問題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> $8+3$ のけいさんのしかたをかんがえよう。 </div> <p>T: 昨日の計算, $9+3$ と同じところはどこですか。 C: $+3$ は同じ。 C: 答えが 10 を超えるたし算なのは同じ。</p> <p>T: 違うところはどこですか。 C: 9 が 8 に変わった。</p> <p>2 本時の課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> どんなけいさんになるかな。 </div>	<p>・前時との相違点で学習した $9+3$ と $8+3$ を見比べて, 共通点や相違点を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇「事象との対話」数理的な問題把握 前時で学習した $9+3$ と本時の学習 $8+3$ の共通点や相違点についての話し合いを通して, 被加数が 8 に変わったことに気付かせる。そして, 被加数が 8 に変わっても, 前時を基に, 10 のまとまりをつくり, 「10 といくつ」という数の見方に着目すると求められそうだという見通しをもたせて, 自力解決をさせたい。</p> </div>
考 え る	<p>3 見通す T: 前の時間には, どのようにして計算をしましたか。 C: 10 のまとまりをつくりました。 T: どうやって (何を使って) 確かめますか。 C: ブロック C: さくらんぼ計算</p> <p>4 やってみる T: $8+3$ の計算をブロックや, さくらんぼ計算でやってみましょう。</p> <p>5 たしかめる T: どのように考えたか, 自分の考えを説明しましょう。 C: ブロック</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="margin-right: 20px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 8 はあと 2 で 10 ② 3 を 2 と 1 に分ける。 ③ 8 に 2 をたして 10。 ④ 10 と 1 で 11。</p> </div> </div> <p>C: さくらんぼ計算</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>6 くらべる T: 考えの似ているところはどこですか。 C: 10 を作って, 10 と 1 で 11 と答えを出しています。</p> <p>7 適用問題 P63 4 $7+4$ のけいさんのしかたをいみましょう。</p>	<p>・ブロックで答えを求められた子には, さくらんぼ計算にも取り組ませる。さらに, ブロック操作や, さくらんぼ計算と関連付けて, 加数分解による計算の仕方を言葉でもまとめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇「他者との対話」考えを確かめる 既習と本時の学習の考え方を比べ, 共通点を話し合うことで, 被加数が 8 に変わっても, 10 のまとまりをつくり, 「10 といくつ」という数の見方に着目し, 加数を分けてたすとよいことに気付かせたい。</p> </div> <p>・考える際は, ブロックを使ってもよいが, 式を重視し, さくらんぼ計算で求めさせる。その後, 言葉で説明させる。 ・速く解けた児童は, 別の問題にも取り組ませる。</p>

32分		【思考・判断・表現】 被加数が8～7の場合でも、10のまとまりをつかって計算すればよいことを考え、説明している。 (観察・ブロック・ノート・発表)
まとめる5分	8 まとめる 10 といくつになるように、うしろのかずをわけてたすとよい。	・板書で本時の学習を振り返りながら、児童の発言をもとに、まとめていく。
振り返る3分	9 本時を振り返る (期待される振り返りの言葉) C: 8+3や7+4の計算も、10といくつになるように、後ろの数を分けるといいことが分かりました。 C: のまとまりを作って考えると、分かりやすかったです。	・学習を通してわかったこと、友だちの学びのよさ等を発表させる。 ・発表した内容を価値づけるとともに、発表しようとしている姿や、発表を聞こうとしている姿を認めていく。

(4) 板書計画

㊦ 8+3のけいさんのしかたをかんがえよう。	㊧ どんなけいさんになるかな。	㊨ 10といくつになるように、うしろのかずをわけてたすとよい。
<p>(みとおし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりをつくる ・3をわける <p>・こたえ 11?</p> <p>(ほうほう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック ・さくらんぼけいさん 	<p>(けいさんのしかた) <ブロック> 10 と1で11</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> □□□□□□□□ ← □□ □ </div> <p>(さくらんぼけいさん)</p> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 8 \\ + 3 \\ \hline 10 \quad 2 \quad 1 \end{array} = 11$ </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ① 8はあと2で10 ② 3を2と1にわける。 ③ 8に2をたして10。 ④ 10と1で11。 </div> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} p \quad 6 \quad 3 \quad \triangle 4 \\ 7 + 4 = 11 \\ \hline 10 \quad 3 \quad 1 \end{array}$ </div>